

平成 28 年度 第 6 回コンクリート常任委員会 議事録

日 時：2017 年 3 月 16 日（月）14 時～17 時

場 所：土木学会 講堂

出席者：前川委員長、石田幹事長、宇治、氏家、大内、鎌田、河合、坂田、武若、谷村、土谷、津吉、二羽、丸屋、森の各委員、綾野、岩波、齊藤、名倉、久田の各委員兼幹事

配付資料：

- 6-0 平成 28 年度第 6 回コンクリート常任委員会議事次第
- 6-1 平成 28 年度第 5 回コンクリート常任委員会議事録（案）
- 6-2 SIP 対応高炉スラグ細骨材を用いたプレキャストコンクリート部材に関する研究小委員会（262 委員会）委員構成
- 6-3 石炭灰混合材料の設計施工および環境安産性評価に関する研究小委員会（261 委員会）委員構成
- 6-4 混和材を大量に使用したコンクリート構造物の設計・施工研究小委員会（264 委員会）委員構成
- 6-5 高炉スラグ微粉末を用いたコンクリートの施工指針改訂小委員会（265 委員会）委員構成
- 6-6 平成 28 年度コンクリート委員会一般会計予算執行状況
- 6-7 繊維補強コンクリートの構造利用研究小委員会（346 委員会）委員構成
- 6-8 「施工性能にもとづくコンクリートの配合設計・施工指針（2016 年版）」に関する各地区での講習会開催状況
- 6-9 「コンクリート構造物における品質を確保した生産性向上に関する提案」に関する各地区での講習会開催状況
- 6-10 平成 29 年度「重点研究課題（研究助成金）」申請書
- 6-11 全国大会研究討論会への応募
- 6-12 第 17 回コンクリート構造物の補修、補強、アップグレードシンポジウム参加案内

議 事：

1. 委員長挨拶

前川委員長より、半年後には示方書【設計編】、【施工編】の審議が始まる。また来年の 3 月には示方書改訂の講習会が開催される。引き続きご協力を頂きたいと、挨拶があった。

2. 平成 28 年度 第 5 回コンクリート常任委員会議事録の確認

岩波幹事より、資料 6-1 に基づき、前回議事録案が説明され、異議なく承認された。

審議事項：

1. 第 2 種委員会の委員構成案

(1) SIP 対応高炉スラグ細骨材を用いたプレキャストコンクリート部材に関する研究小委員会（262 委員会）委員構成

綾野幹事より、資料 6-2 に基づき、委員構成案（河野委員長、上野幹事長）の説明があり、承認がされた。なお、これに関連して、次の議論があった。

- ・ 指針の目次「第 10 章品質保証」とは、他の指針でも一般に取り扱われている内容か。

→ 「品質保証」とはプレキャストの品質に対する保証の仕方を指している。委員会活動が始まり、指針の検討を行う際に、常任委員会で、「品質保証が指針に相応しい内容になるのか、タイトルが指針として相応しいのか検討をして欲しい。」との意見があったことを伝えると説明があった。

(2) 石炭灰混合材料の設計施工および環境安全性評価に関する研究小委員会（261委員会）委員構成
久田幹事より、資料6-3に基づき、委員構成案（久田委員長、佐藤副委員長、石田幹事長）の説明があり、承認がされた。なお、これに関連して、次の議論があった。

- ・ 本委員会で取り上げる環境安全性とは何か。

→ 石炭灰混合材料を利用したい場合に、有害な化学物質が環境へ溶出することについて検討を行う。

(3) 混和材を大量に使用したコンクリート構造物の設計・施工研究小委員会（264委員会）委員追加
石田幹事長より、資料6-4に基づき、委員追加（太田委員（前田建設工業㈱））の説明があり、異議なく承認された。

(4) 高炉スラグ微粉末を用いたコンクリートの施工指針改訂小委員会（265委員会）委員変更

前川委員長より、資料6-5に基づき、委員変更（吉田委員→關委員（㈱竹中土木））の説明があり、異議なく承認された。

2. その他

特になし。

報告事項：

1. 平成28年度コンクリート委員会予算執行状況

石田幹事長より、資料6-6に基づき、予算執行状況の報告があった。なお、これに関連して、次の質問があった。

- ・ 第2種委員会の予算の合計が合っていない。

→ 予算の合計は、ご指摘のとおり、220万円ではなく、重点研究課題分を加えた480万円が正しい。

2. 第3種委員会の委員構成

(1) 繊維補強コンクリートの構造利用研究小委員会（346委員会）委員変更

久田幹事より、資料6-7に基づき、下記の委員追加および委員退任の報告があった。

- ・ 退任：小川委員（㈱クラレ）、小倉委員（清水建設㈱）
- ・ 追加：末森委員（㈱クラレ）、橋本委員（大成建設㈱）、松永委員（㈱エスイー）、吉武委員（清水建設㈱）

3. 報告会・講習会の開催について

(1) 「施工性能にもとづくコンクリートの配合設計・施工指針（案）」支部講習会の開催状況

久田幹事より、資料6-8に基づき、8支部で講習会が開催され、573名の参加者があったと報告があった。

(2) 「コンクリート構造物における品質を確保した生産性向上に関する提案」支部講習会の開催状況

久田幹事より、資料6-9に基づき、東京と大阪で本部主催として開催された講習会が盛況であったと報告があった。なお、この講習会の黒字としてコンクリート委員会の予算となる調査研究拡充支援金は、これから6支部で開催予定の講演会に講師を派遣する旅費の一部に充てられることが了承された。対象となる講師は、267委員会からの提案に基づき、幹事会で決定し、常任委員会に報告する。

4. 土木学会重点課題

石田幹事長より、資料6-10に基づき、田村委員長、細田幹事長とする「コンクリート構造物の品質・耐久性確保マネジメントシステムの社会実装～東北から九州・阿蘇へ～」で提出したと報告があった。なお、本申請については、常任委員会後の3月17日（金）に採択の可否が決定される予定である。

5. 土木学会全国大会研究討論会への企画案

石田幹事長より、資料6-11に基づき、重点課題として活動を行っている研究委員会を中心とした、「コンクリート構造物の品質・耐久性確保マネジメントシステムの社会実装」で申請を行ったと報告があった。

6. その他

(1) アップグレードシンポジウム開催のご案内

鎌田委員より、資料 6-12 に基づき、アップグレードシンポジウム開催案内があり、アブストラクトの締切りが 3 月 17 日（金）であるが、ふるって申込みを頂きたいと依頼があった。

懇談事項：

1. 国土交通省・生産性向上協議会について（前川委員長）

- ・ 国土交通省のスランプの積算が、8cm から 12cm に変更されるプレス発表が 3 月 17 日（金）に予定されている。
- ・ 施工において、12cm 以外の選択も、発注者に報告をすれば、今以上に認められる方向になる。
- ・ 従来、コンクリートの品質に影響を与える単位水量と施工性に影響を与えるスランプは密接な関係にあった。しかし、化学混和剤等の進歩により、少ない単位水量で大きなスランプのコンクリートを製造することが可能になっている。コンクリートの品質を損なうことなく、確実な施工の行えるスランプ 12cm のコンクリートが選択されることは、技術の進歩にあった自然な流れである。
- ・ 高流動コンクリートの使用についても、共通仕様書に入る予定である。橋梁上部工等に、粉体量の多い高流動コンクリートが用いられることで、これまでセメントに求められていた早期の強度発現性は必要なくなるかもしれない。結合材についても合理的な選択が行えるシステムが生まれることが期待される。
- ・ 267 委員会より提案された項目に対して、国土交通省からの回答が示される。中期的な検討とされているものの中にも、検討は直ぐに開始すべきものが含まれている。今から検討を始めて結果が出るまでに時間のかかるもの、例えば、隅角部の簡略化等は、大学において直ぐにでもとりかかるべき研究テーマと思われる。
- ・ PC プレキャスト製品については、JIS A 5373 に規格されていない 24m 以上 40m 未満の部材の標準化（JIS 化）、それ以上の現場打ちコンクリートで製造されていた大型部材のプレキャスト化の可能性、ならびに、埋設型枠や鉄筋のプレハブ化等の製造の合理化が検討されており、議論の途中である。10%程度のコストアップであれば、プレキャスト部材が採用される見込みであり、プレキャスト部材を採用する際の条件明示を整える必要がある。

次回開催日：

後日、事務局より、新常任委員に連絡する。